

令和 6 年度第 2 期泉佐野市まち・ひと・しごと創生総合戦略会議

第 1 回事業評価委員会 会議録要旨

開催日時	令和 6 年 7 月 18 日（木）午後 6 時 30 分～8 時 30 分	
開催場所	泉佐野市役所 5 階 第一会議室	
案件	1 開会 2 委員の紹介 3 事務局の紹介 4 議 事 (1) 泉佐野市の状況について（報告） (2) 令和 5 年度実施事業の進捗状況・評価・検証について (3) 今後の予定について (4) その他 5 閉会	
委員出席者	吉村委員長 牧野副委員長 大道委員 栗本委員 鉄谷委員 湯川委員	
事務局出席者	高橋政策監兼市長公室長 川崎政策推進課長 塩見政策推進課係長 中上政策推進課係員 喜多政策推進課係員	
創生本部の幹事	奥教育長 新谷大阪万博担当理事 峯政策監兼市民協働部長 今西中心市街地活性化担当理事 熊田政策監兼健康福祉部長 高橋政策監兼都市整備部長	福井政策推進担当理事 塩見ふるさと納税担当理事 宗野政策監兼生活産業部長 木ノ元郷土芸能担当理事 古谷政策監兼こども部長 木下政策監兼教育部長

配付資料

- 【資料 1】 泉佐野市まち・ひと・しごと創生総合戦略会議・事業評価委員会委員名簿
- 【資料 2】 泉佐野市まち・ひと・しごと創生総合戦略会議・事業評価委員会設置要綱
- 【資料 3－1】 デジタル田園都市国家構想交付金 令和 5 年度活用実績
- 【資料 3－2】 デジタル田園都市国家構想交付金 令和 6 年度申請状況
- 【資料 4】 令和 5 年度実施事業評価一覧表
- 【資料 5】 P D C A サイクル 進捗管理シート

《開会の辞》

《委員・事務局・幹事紹介》

《委員長・副委員長の紹介》

《資料確認》

《本会議の設置根拠や会議運営にあたっての諸事項説明》

事務局： 只今の説明について、ご意見、ご質問等がありますか。《なし》

続いて、次第４の議事に入ります。ここからの進行については、先ほども申し上げたとおり、吉村委員長に議長をお願いしたいと思います。吉村委員長、よろしくお願いします。

委員長： 委員長にご指名にあがりました吉村でございます。

長めの会議となりますが、どうぞよろしくお願いいたします。

では、早速ですが、泉佐野市の状況につきまして、事務局の方からご説明をお願いいたします。

事務局：《（１）泉佐野市の状況について報告》

それでは、案件（１）泉佐野市の状況について、総合戦略には全国的に進む人口減少に歯止めをかけるという目的がございますので、資料はございませんが、泉佐野市の人口の状況等を、はじめにご説明したいと思います。

まず、国レベルでは、本年６月に公表された厚生労働省の令和５年人口動態統計月報年計によりますと、出生数は過去最少、自然増減数は１７年連続して減少、合計特殊出生率は１.２０（対前年比△０.０６ポイント）で、８年連続低下といった状況でございました。

また大阪府下では、合計特殊出生率が１.１９と前年から０.０３ポイント低下している状況です。

そして、泉佐野市の状況でございますが、全国的に人口減少が進んでいますが、本市の場合は、月ベースでは人口増減を繰り返しつつ、暦年ベースで見ますと増加（Ｒ４.１２末 ９８,５４５人→Ｒ５.１２末 ９９,０３７人で ４９２人【住民基本台帳より※外国人含む】）という結果になっています。

日本人と外国人の括りでみますと、日本人は減少（Ｒ４.１２末 ９６,４２１人→Ｒ５.１２末 ９６,２１２人で△２０９人）しておりますが、外国人は増加（Ｒ４.１２末 ２,１２４人→Ｒ５.１２末 ２,８２５人で ７０１人）傾向にあります。

外国人人口について、コロナ禍前では増加傾向でしたが、新型コロナウイルスの流行期には減少となりました。コロナ禍後は再び増加傾向となっております。

就労されている外国人や留学生などの定住人口の増加の影響により、本市全体として人口増加になっているところが、本市の特徴となっております。

人口の状況は以上のとおりでございます。

それでは、資料３－１の表裏をご覧ください。

地方創生に伴う国の財政支援であるデジタル田園都市国家構想交付金（地方創生推進タイプ）の令和５年度の活用実績等についてご報告いたします。

まず、表の見方ですが、表の左上に交付金の種類を記載しており、また、この交付金を活用充当した各事業を総合戦略に掲げた４つの基本目標ごとに記載しております。表の左側から番号、当該

事業の担当課名、事業名、事業概要、決算額、決算額の中の交付金充当額、市の負担となる一般財源額、事業開始年月、事業完了年月、そして、参考としまして、当該事業の進捗管理シートを資料5で綴っておりますので、そのページ数を、備考欄には予算計上時期を記載いたしました。

それでは、「デジタル田園都市国家構想交付金（地方創生推進タイプ）」の活用状況について、簡単にご説明します。平成28年度早々に、地方創生の深化に向けた総額1,000億円を予算規模とする「地方創生推進交付金」が新設され、現在に至っております。この交付金の特徴としましては、事業期間は複数年度も可能とし、安定的・継続的に支援するところにあります。また、2分の1補助と自立性も求められているところも特徴の1つでございます。

令和5年度における交付金につきましては、資料3-1の1ページ目（表面）に記載の単独事業である「eスポーツ MICE コンテンツ実証計画」、次に資料3-1の2ページ目（裏面）に記載の広域事業である「関空立国デスティネーション化推進事業」と『恋人の聖地』広域市町村連携による関係人口拡大に向けたバーチャルコンパクトシティ」の3事業を申請し、3事業が交付決定されました。令和5年度における交付金額の合計は資料3-1の2ページ目（裏面）最下段になりますが、1億2千558万円となっており、決算額の合計としては2億5千116万円となっております。

続きまして、資料3-2の表裏をご覧ください。

令和6年度の申請状況についてご報告いたします。

令和6年度における交付金につきましては、資料3-2の1ページ目（表面）に単独事業として令和4年度に認められた「eスポーツ MICE コンテンツ実証計画」で7千万円。次に単独分として令和6年度に認められた「観光アプリ等を活用した着地型商品普及のための地域活性化計画」で2千029万5千円。

それと、資料3-2の2ページ目（裏面）の広域事業として認められた『恋人の聖地』広域市町村連携による関係人口拡大に向けたバーチャルコンパクトシティ」で3千539万5千円となっております。

以上、単独分2つで9千029万5千円、広域分1つで3千539万5千円となっており、3つの事業の交付金予定額の合計が資料3-2の2ページ目（裏面）最下段にあります1億2千569万円となっており、予算額の合計としては2億5千138万円となっております。

なお、この地方創生推進交付金（現在は「デジタル田園都市国家構想交付金（地方創生推進タイプ）」につきましては、今後とも交付金や基金の活用も含めて、財源の確保に努めていきながら、地方創生に向けた取り組みを行っていきたいと考えております。（活用できる枠は広域分も含めてまだ少しある）

報告は以上です。

委員長： 泉佐野市の人口や交付金などのご報告でしたが、何かご意見、ご質問等はないか。

委員： 資料3-1の令和5年度実績の決算額と、資料5の決算額があっていない。資料3-1の決算額は交付金の対象経費額の決算額という認識でよいのか。

事務局： おっしゃるとおり資料3-1の決算額は交付金の対象経費額の決算額であり、資料5の決算額は交付金の対象経費となっていない額も含めた総事業費の決算額である。

委員： 国などに提出する資料であれば誤解を与えるかもしれないので、資料の記載に際しては留意していただきたい。また、昨年申請資料と今年の実績資料を比較すると、決算額のほかに交付金充当額や一般財源、事業概要などが同じ記載となっていた。実績である以上は事業概要等に最新の内容を反映していただきたい。

事務局： 検討する。

委員長： 他にご意見、ご質問等はないか。

《なし》

それでは次に（２）令和５年度実施事業の進捗状況・評価・検証について、先に資料等について事務局から説明を受けた後、検証方法と進め方について、ご意見を頂戴したい。それでは、事務局の方からの説明をお願いしたい。

事務局：《（２）令和５年度実施事業の進捗状況・評価・検証について説明》

事業評価委員会のメインとなります令和５年度実施事業の進捗状況・評価・検証についてですが、資料４と資料５を基にして、評価等をしていただくことになります。

まず、資料４をご覧ください。

令和５年度実施事業評価一覧表としまして、総合戦略に掲げた全事業の評価一覧表で、

４つの基本目標ごとに、それぞれの事業を記載いたしております。表の左側から、番号、具体的な施策及び事業名、令和５年度の市の評価、委員会評価、コメント、そして当該事業の進捗管理シートを、次にご説明させていただき資料５に綴っておりますので、そのページ数を記載いたしました。

市評価につきましては、裏面の２ページの集計になりますが、評価はＡ・Ｂ・Ｃ・Ｄ・Ｅの５段階評価とし、一番評価が高いのはＡ評価で「目標以上に進捗しており、このまま継続して事業を推進する」で、反対に一番評価が低いのはＥ評価で「目標値または事業自体の抜本的見直しを要する」としました。その集計でございますが、Ａ評価が１４事業、Ｂ評価が１０事業、Ｃ評価が一番多く１７事業、Ｄ評価が１事業、Ｅ評価が０事業で、合計４２事業が今回の評価対象事業数となっております。

あと、一覧表の委員会評価及びコメント欄につきましては、資料５の進捗管理シートでの委員会評価の結果を記入できるようにしており、委員会としてのコメントがある場合は○印を記入するようにしております。

コロナ禍においては、数値が大幅に減少もしくはゼロとなった事業もありました。昨年５月、感染症法上の位置づけが２類から５類となり、概ね順調に回復してきております

次に、資料５をご覧ください。ＰＤＣＡサイクルの進捗管理シートを事業ごとに作成したものでございます。表紙をめくっていただき、シートの説明をさせていただきますと、まず上段の表では、基本目標、基本的方向、具体的施策、事業名、事業概要を、中段の表では進捗状況としまして、目標事項やＫＰＩ（重要業績評価指標）、現状値を記載しております。そこへ令和５年度の実績値とその達成度を記入しており、この令和５年度の実績が評価の判断材料の１つとなります。

ここで、少し達成度について補足説明させていただきます。事業評価は、事業内容などの評価に加え達成度も勘案して事業全体を評価することになります。またその指標につきましては、事業の性質上、単年のものや累計のものがございます。そのあたりを表の中の「令和７年度目標値」の横に明記しております。

また、その横にある指標の傾向も補足説明させていただきます。矢印で「上向き・平行・下向き」で示しております。これは指標によって、待機児童数のように０を堅持することを目標にした時の「平行」や、不登校生徒数のように減らすことを目標にした「下向き」で示したものでございます。

なお目標事項ごとに、ＫＰＩ設定根拠やＫＰＩ目標数値の積算根拠も示しております。

そして下段になりますが、令和５年度の市の評価としまして、担当課の評価と進捗状況のコメント

ト、改善としまして、令和6年度の取り組みなどのコメントを記載しております。これらも評価の判断材料になるものと考えております。あと、最下段には、委員会としての評価とコメントを入れる欄を設けております。

また、各シートの右下にはページ数を記載しており、このページ数は先ほどの資料4に記載しているページ数と連動しております。

以上、これらの資料を基に、各委員に評価いただくことになりますので、よろしくお願いします。

委員長：何か他にご質問はないか。《なし》

それでは、評価の進め方について、私の方からご提案をさせていただきたい。これから、1つ1つの事業について評価する訳だが、時間的な制約もあるので、基本的には資料を事前にお読みいただいているという前提で、個別の事業については、事務局から補足説明が必要なものだけ説明して頂くということにしたい。そして、評価の方法であるが、市の自己評価に対して、特に皆さまのご意見がない場合には、委員会としては自己評価どおりとさせて頂きたい。ただ、市の自己評価と異なる評価を委員会でする場合には、委員会として、その判断理由のコメントを記すということにしたい。以上のような評価の仕方で行って進めさせていただいてよろしいか。《はい》

では、その形で進めさせていただく。それでは、評価に入らせて頂くが、4つの基本目標があるので、目標ごとに分けて、評価していきたい。それでは、まず、基本目標①安定した雇用を創出するについて、事務局から補足説明をお願いしたい。

事務局：《基本目標①の事業について補足説明》

それでは、基本目標①に掲げる各事業の令和5年度市の評価に対する補足説明をさせていただきます。なお、ここからの基本目標ごとの補足説明につきましては、各事業の市の評価がB評価である「ほぼ目標どおりに進捗しており、継続して事業を推進する。」以外の評価となった事業を中心に説明させていただきます。

まず、資料4の評価一覧表の表面をご覧ください。

基本目標①「安定した雇用を創出する」に掲げた事業は7事業でございます。市の評価につきましてはA評価が3事業、B評価が2事業、C評価が2事業となりました。

それでは、資料5の2ページをご覧ください。「企業誘致奨励金事業」ですが、事業概要としましては、市内に新たに事業所を建設・設置される企業で、一定条件を満たす場合に奨励金を交付するものでございます。コロナの影響が後を引き、目標事項①の奨励金交付企業について新規件数が発生せず、目標事項②の新規雇用者もほぼ現状維持に留まったことから、目標事項①②の達成度を総合的に判断し、市の評価としてはC評価としております。

次に、資料5の3ページをご覧ください。「地場産品創出支援事業」ですが、事業概要としましては、ふるさと納税を利用して企業から新たな地場産品の提案を受けて、クラウドファンディングのプロジェクトを実施するものでございます。目標事項①の企業誘致件数の達成度が100%を超えており、また目標事項②のクラウドファンディングに係る交付予定事業件数も、目標値を大きく上回っていることから、市の評価としてはA評価としております。

次に、資料5の4ページをご覧ください。「エリアマネジメント活動推進事業」ですが、事業概要としましては、本市の中心市街地の活性化を図るため、エリアマネジメントの推進や遊休不動産の活用等により、中心市街地の再生に取り組むものでございます。目標事項①②とも、KPIの数値や達成度が高くなっていることから、市の評価としてはA評価としております。

次に、資料5の5ページをご覧ください。「地域就労支援事業」ですが、事業概要としましては、就職困難者等に対して、地域就労支援事業の活用、相談等を行い、一人でも多くの就労の実現に向けて支援をするものでございます。今回から目標事項のうち「自治体主体の公式求人サイトに登録した求職者のうち登録のあった事業所への就業件数」が追加となりました。求職者と人材確保や業務効率化を求める地域企業を繋ぐことを目標に KPI を設定しました。なお、市の評価としては目標事項①の就労者数の達成度が昨年と比較し大きく上回ったものの、新たに設定しました目標事項②の就業件数が目標に届かなかったことから、総合的に判断しB評価としております。

次に、資料5の6ページをご覧ください。「地域課題解決型就職氷河期世代就労支援事業」ですが、事業概要としましては、雇用環境が厳しい時期に就職活動を行い、現在も様々な課題に直面している方々の就業を支援するものでございます。KPIである『就労に結びついた就労者数』の実績値が目標値を大幅に上回ったことから、市の評価としてはA評価としております。

次に、資料5の7ページをご覧ください。「外国人受入環境整備事業」ですが、事業概要としましては、外国人材に対してのワンストップ相談窓口の設置、優良な外国人材の確保・育成を通じた雇用マッチング、地域社会の交流支援などを実施するものでございます。

目標事項の②の施設の利用者について、外国人就労者に関する相談窓口での相談件数が大きく増加しているものの、目標事項の①である外国人就労者の斡旋までに繋がらなかったことから、市の評価としてはC評価としております。

基本目標①の補足説明は以上です。

委員長： それでは、基本目標①の各事業について、何かご意見・ご質問等はないか。

委員： 3ページの「地場産品創出支援事業」の5年度評価コメントについて、「新たに26件のプロジェクトを採択した」と記載しているが、KPI①②の実績値を足しても26件にならない。26件の数値はどこからでてきたのか。

幹事： 26件という数値は令和5年度中に採択した数となっている。一方、KPIの数値は年度をまたがって実施することが可能であることから数値が異なっている。

委員： 4ページの「エリアマネジメント活動推進事業」のKPI①の目標数値の積算根拠について、「大幅な改修工事を必要としない物件の件数(132件)のうち、活用できる物件の1割を設定」と記載があるが、現在はこの132件の数が変化しているのか。また、KPI②の数値はどういった人数から積算しているのか。

幹事： KPI①の132件の数値の変化について調査はできていないが、KPIに記載している補助金を活用して整備した件数に加えて、補助金を使わずに整備する件数も増えていることから、全体的には現在は減少していると考える。

KPI②について、商売を始められた方の人数となっている。そのような方を対象としてワークショップやセミナーを開催している。ただし、現状も商売を続けているかまでは調査できていない。

委員： 5ページの「地域就労支援事業」のKPI①は就業者数、KPI②は就業件数と設定しているが、これらの単位が異なるのは何か違いがあるのか。

幹事： KPI②はマッチングサイトのアプリに1人が複数回マッチングすることもあるため件数という単位を設定している。

委員： 2ページの「企業誘致奨励金事業」のKPI①②の実績値について、累計数があまり伸びていないと思われる。質問としては、令和3年度に大きく伸びているが何か理由があるのか。また、令和4年度から令和5年度の実績値を踏まえてどのように対策していけばよいのか。また目標値の見直し

をする予定があるのか。

幹 事： 令和３年度の伸びが大きい要因は、りんくうプレミアムアウトレットの増床があったためだと思われる。また、KPIの実績値は奨励金の交付があった数となっており、申請には至らなかった企業も実際にはある。ただし、実績値を伸ばしていくために今後制度の周知は図っていく必要があると考える。また、目標値については現状とおりで考えている。

委 員： ７ページの「外国人受入環境整備事業」のKPI①について、需要と供給の問題もあるかもしれないが、実際に市内の企業が外国人材をあっせんしてほしいという声が大いのか。

幹 事： 大企業については技能実習や特定技能の外国人を雇用している。中小企業については、外国人は低単価で雇用できるという認識があるが、実際は日本人以上に給料が高くなるケースもあることから、現状人材不足であるものの外国人の雇用につながっていない。引き続き企業向けに外国人就労者あっせんの情報発信はしていく。

委 員 長： 他いかがか。

基本目標①についてはよろしいか。それでは基本目標①の事業については、市の自己評価の通りとさせて頂きたい。《はい》

次に、基本目標の②であるが、定住魅力の強化により泉佐野市への新しい人の流れをつくるというところについて、事務局から補足説明をお願いしたい。

事 務 局：《基本目標②の事業について補足説明》

基本目標②に掲げる各事業に対する補足説明をさせていただきます。

資料４の評価一覧表表面の中段の表をご覧ください。

基本目標②「定住魅力の強化により泉佐野市への新しいひとの流れをつくる」に掲げた事業は８事業でございます。市の評価につきましては、Ａ評価が４事業、Ｂ評価が２事業、Ｃ評価が２事業となりました。

それでは、資料５の１０ページをご覧ください。「関空立国デスティネーション化推進事業」ですが、事業概要としましては、関空の対岸という強みを活かし、ナイトタイムエコノミーの推進や新たな観光資源の魅力創出等による観光客の目的地化と、地域間連携の強化による周辺地域への出発地あるいは中継地としての観光ハブ都市化をめざすものでございます。目標事項の②「あさひ貸りんくうステージ（りんくう野外文化音楽堂）の利用者数」は大きく増加しているものの、その他の目標事項①③④につきましては、コロナ禍の影響から回復基調にはあるものの、回復が遅れておりますので、市の評価はＣ評価となっております。

次に、資料５の１１ページをご覧ください。「「恋人の聖地」広域市町村連携による関係人口拡大に向けたバーチャルコンパクトシティ事業」ですが、事業概要としましては、ＮＰＯ法人地域活性化センター「恋人の聖地」プロジェクトに参画する１４市町村の広域連携・共同事業等により、関係人口の拡大をめざすものでございます。目標事項の①観光入込数や②仮想市民登録者数、そして③地方志向者の魅力度数、それぞれの実績値が目標値を上回ったことから、市の評価はＡ評価としました。

次に、資料５の１２ページをご覧ください。「eスポーツ MICE コンテンツ実証事業」ですが、事業概要としましては、eスポーツを通じて人々に交流の機会を提供するほか、これを通じた人材育成等の取り組みによって、交流の増加・深化を図り、新たな都市魅力の創造や発信といった課題の解決を図るものでございます。目標事項の①②③とも実績値が大幅に目標値を上回ったことから、

市の評価はA評価としました。

次に、資料5の13ページをご覧ください。「地方版 MICE 誘致推進事業」ですが、事業概要としましては、国際空港の玄関都市という好立地を活用した地方版 MICE の誘致に向け、課題等を抽出し、効果的な MICE 誘致に取り組むものでございます。コロナ禍を経て、商談会等は増加しているが、誘致にまで繋がる案件がまだ少ないため、市の評価はC評価となりました。

次に、資料5の14ページをご覧ください。「ふるさと応援寄附金事業」ですが、事業概要としましては、全国の寄附者と繋がりを図ることにより、地元特産品のPRや販売促進、観光誘致につなげることで、地元企業・地域の活性化をめざすものでございます。目標事項である寄附件数の実績値が大幅に目標値を上回ったことから、市の評価はA評価としました。

次に、資料5の15ページをご覧ください。「東京事務所運営事業」ですが、事業概要としましては、東京事務所の運営や東京を拠点とした自治体間の交流促進、イベントや東京いずみさの会等の開催・調整を行うものでございます。目標事項である東京いずみさの会 会員数ですが、会員獲得などの活動が功を奏し、実績値が大幅に増加したため、市の評価はA評価としました。

基本目標②の補足説明は以上です。

委員長： それでは、基本目標②の各事業について、ご意見・ご質問いかがか。

委員： 11ページの「「恋人の聖地」広域市町村連携による関係人口拡大に向けたバーチャルコンパクトシティー事業」について、資料3に記載があるとおりの、令和5年度と比較して予算額が3倍以上となっていることから、「6年度のおける取り組みなど」に予算額が増えた理由など記載すべきではないか。

幹事： 関空立国デスティネーション化推進事業の予算を恋人の聖地事業に振り替えていたので予算が大きくなった。予算が増えた理由の記述が不足していたので修正する予定である。

委員： 10ページの「関空立国デスティネーション化推進事業」のKPI③について、累計となっているにもかかわらず数値が下がっていることから修正する必要があると考える。

幹事： 正しい数値に修正する予定である。

委員： 9ページの「観光振興事業」のKPI①について、数値の根拠を教えてください。

幹事： 観光庁が公表している統計調査のデータをもとに推計値をだしている。

委員長： 他、いかがか。

基本目標②の事業については、市の自己評価のとおりとさせていただきたいがよろしいか。

《はい》

それでは、そのようにさせていただく。

続いて、基本目標③「結婚・出産・子育ての希望をかなえる」について、事務局から補足説明あればお願いをする。

事務局： 《基本目標③の事業について補足説明》

基本目標③に掲げる各事業に対する補足説明をさせていただきます。

資料4の評価一覧表表面下段の表をご覧ください。

基本目標③「結婚・出産・子育ての希望をかなえる」に掲げた事業は14事業でございます。市の評価につきましては、A評価が4事業、B評価が4事業、C評価が5事業、D評価が1事業となっ

ています。

それでは、資料5の16ページをご覧ください。「さのっ子ナビ（電子母子手帳）による子育て支援」についてですが、事業概要としましては、妊娠中の役立つ情報をはじめ、予防接種のスケジュール管理や健診記録など、妊娠から出産、子育てまでの支援を行うものでございます。目標事項の実績値や達成度について、目標どおりに進捗したとは言えないため、C評価としました。

次に、資料5の17ページをご覧ください。「地区福祉委員会活動の支援（ふれあいのまちづくり事業）」についてですが、事業概要としまして、地域において子育て世帯が孤立することなく、子育てに関する相談や親子の仲間づくりを目的とした子育てサロン活動の支援を行うものでございます。開催回数の増加がみられるものの、目標事項の①②を下回っているため、C評価としました。

次に、資料5の19ページをご覧ください。「地域における子育て支援サービス」についてですが、事業概要としましては、地域子育て支援拠点事業やファミリーサポートセンター事業など、在宅で保育を行う家庭を含むすべての子育て家庭に対して必要な支援を行うものでございます。感染症対策をしながらの事業実施となり、昨年度と同水準の実績となったため、C評価としました。

次に、資料5の20ページをご覧ください。「小学校通学支援事業」についてですが、事業概要としましては、立地的に支援が必要な地域又は山間部に立地する大木小学校について、マイクロバスを借り上げ、子ども達が安心・安全に学べられるよう、通学の支援を行うものでございます。目標事項の「通学バス利用児童数」の達成度が昨年度に続き100%を超えたことから、A評価としました。

次に、資料5の22ページをご覧ください。「放課後児童対策事業」についてですが、事業概要としましては、保護者が就労等により昼間家庭にいない小学校に就学している児童に、遊びや生活の場を提供するとともに、楽しく学べる学習支援プログラムを実施するものでございます。共働きやひとり親家庭が増加傾向にあり、目標事項の「留守家庭児童会入会者数」が、目標値を超えていることから、A評価としました。

次に、資料5の23ページをご覧ください。「泉佐野市の未来を創る教育事業」についてですが、事業概要としましては、全国学力・学習状況調査の結果を踏まえ、重点支援小学校への支援策として「学力向上アドバイザー」を配置するなど、市域全体の学力向上を図るものでございます。目標事項となっている「小学校における全国学力・学習状況調査の平均正答率との差」において、①算数、②国語ともに、目標値の差より開きがありましたので、C評価としました。

次に、資料5の24ページをご覧ください。「家庭への支援事業」についてですが、事業概要としましては、いじめや不登校の未然防止・早期発見・早期解決に向けた体制の強化を図るため、スクールカウンセラーを教育支援センター「さわやかルーム」「シャイン」に1名ずつ、スクールソーシャルワーカーを各中学校区に1名配置するものでございます。不登校については、コロナ禍の影響もあり、全国的に増加傾向にあります。小学校および中学校とともに、昨年に比べて微減となっているが、目標事項となっている「不登校生徒数（千人率）」について、目標値を下回ることができなかったため、D評価としました。

次に、資料5の25ページをご覧ください。「地域の情報拠点としての図書館機能の充実」についてですが、事業概要としましては、魅力ある図書館運営に努めるとともに、資料の充実とニーズに応じた的確な資料提供に努めるものでございます。目標事項の①②とも目標値を達成しておりますので、A評価としました。

次に、資料5の27ページをご覧ください。「ワーク・ライフ・バランスの実現」についてですが、事業概要としましては、結婚・出産・子育て・介護などについて、前向きなイメージを育めるよう、情報提供をはじめ関係機関と連携を図りながら多面的な支援を行うものでございます。目標

事項の「啓発事業の実施回数」ですが、目標としている回数に達しなかったため、C評価としました。

次に、資料5の28ページをご覧ください。「結婚新生活支援事業」についてですが、事業概要としましては、新婚世代の住居費及び引っ越し費用を支援することにより、結婚に伴う経済的不安の軽減を図るものでございます。目標事項の「支援事業補助金交付件数」ですが、目標値を大きく上回っておりますので、A評価としました。

基本目標③の補足説明は以上です。

委員長： それでは、基本目標③の各事業について、ご意見・ご質問いかがか。

委員： 19ページの「地域における子育て支援サービス」のKPI②について、実績値が年々増加しているものの目標値の半分となっている。目標値に届く見込みがあるのか。

幹事： コロナの影響で利用が少なくなったことが目標値に届かない大きな原因となっている。また子どもの数が減っていることも原因として考えられる。ただコロナの影響が落ち着いてきているので増えていく見込みである。

委員： どこまで目標値に近づくような見込みがあるのか。

幹事： コロナの影響や子どもの数が減っている現状を踏まえ、KPIの数値の見直しが必要と考える。

委員： 23ページの「泉佐野市の未来を創る教育事業」、24ページの「家庭への支援事業（スクールカウンセラー等による相談）」の評価について、達成度のみをみると「C」か「D」のどちらかに統一してもよいのではないか。「C」か「D」の評価のつけ方に考えがあれば教えてほしい。

幹事： 不登校の数については減らすことは目的だが、不登校児童・生徒に対してどのように教育を実施していくかについても重要である。ただ評価のつけ方については検討する必要がある。

委員： 24ページの「家庭への支援事業（スクールカウンセラー等による相談）」について、昨年度もD評価となっている。2年連続D評価であることから、今後の対応について教えてほしい。

幹事： 令和4年度は8人、令和5年度は9人とスクールカウンセラーを増員し、令和6年度についても11名と大幅な増加を予定している。またソーシャルワーカーも各学校に1名配置しているなど、きめ細かな対応に努めている。

委員： 23ページの「泉佐野市の未来を創る教育事業」については、目標値を達成することができなかった原因の記載がないので改善点が分かりにくい。また24ページの「家庭への支援事業（スクールカウンセラー等による相談）」については、目標値を達成することができなかった原因の記載はあるが、より具体的な改善策を記載してほしい。

幹事： 学力の全国平均との開きについて、学校だけではなく家庭の事情など様々な要因が関係している。また学校での授業の在り方など改善を図っているが、点数としては全国よりも低くでているのが現状である。また24ページの「家庭への支援事業（スクールカウンセラー等による相談）」についてはD評価となっていることから、実際にスクールカウンセラー増員などの対策をとっている。

委員： D評価の事業が1つしかなく、かつ2年連続となっているということで、どうしても注目が集まる。そのため、D評価となった理由等について詳細に記載してほしい。

委員長： それでは、24ページの「家庭への支援事業（スクールカウンセラー等による相談）」について、評価は市評価のままでよいが、「6年度における取組など」の箇所を修正するということによろしいか。《はい》

委員： 16ページの「さのっ子ナビ（電子母子手帳）による子育て支援」について、予算額が66万で

あり、月換算だと約 5 万円となっていることから、おそらく維持費のみかかっていると推測する。一般的にアプリなどは利用率が減ってくると、減り続けてしまうので、来年度以降の実績値も下がると予想している。平成 28 年からのアプリでバージョンなども古くなり利用しづらくなっていることから、今後、アプリを新しく作るなど考えあるのか。

幹 事： アプリを使い勝手のよいものにしていく必要があると考える。またアプリ普及に向けた周知を図っているが、なかなか登録者数が増えていなのが現状である。そのため利用しやすいように改善に努める必要があると考える。

委 員 長： どの年代の登録者が多いなどの調査はしているのか。

幹 事： 現状できていないが、調査することは可能なので、今後分析していく必要あると考える。

委 員： 27 ページの「ワーク・ライフ・バランスの実現」について、企業のリーダーに向けた話や管理職向けの意識改革や作業の効率化など含めてワーク・ライフ・バランスにつながると考えるが、今後の講座の改善についてはどうお考えか。

幹 事： 今年度の改善の取り組みとしてテーマ拡大と回数の増加をすでに実施している。テーマの拡大としては 5 月にはエアロビクス講座、6 月にはヨガ講座を実施している。また今回ご指摘いただきましたとおり、労働・雇用問題等のテーマ拡大についても検討していきたい。

委 員： 働きやすい環境づくりを整備するためにしなければならないことは多くあるが、本事業は人権推進課が担当となっていることからテーマが限定されると思うが、例えば他の部局でも、そういった意識改革を考えていったほしい。

委 員： 27 ページの「ワーク・ライフ・バランスの実現」について、男性育休の取得率をあげていくべきだと考えるが、そのようなテーマの講座はあるのか。

幹 事： 男性育休の講座については生涯学習課で実施している。今後は、ワーク・ライフ・バランスの講座にも取り入れていくことも検討する。

委 員： 29 ページの「婚活イベント等の共催・後援など（出会いの機会創出事業）」の KPI について、昨年度と今年度の達成度が 100%を超えているにもかかわらず B 評価としているのは理由があるのか。

幹 事： 数値としては増えているが、事業の性質等を鑑み B 評価とした。

委 員 長： 他、いかがか。

それでは、基本目標③の事業については、評価については市の自己評価のとおりとさせていただきたい。《はい》

次に基本目標の④「時代に合った地域をつくり、安全な暮らしを守るとともに、地域と地域を連携する」について、事務局から補足説明をよろしくお願ひしたい。

事 務 局：《基本目標④の事業について補足説明》

それでは、基本目標④に掲げる各事業に対する補足説明をさせていただきます。

資料 4 の裏面の上段をご覧ください。

基本目標④「時代に合った地域をつくり、安全な暮らしを守るとともに、地域と地域を連携する」に掲げた事業は 13 事業でございます。市の評価につきましては、A 評価が 3 事業、B 評価が 2 事業、C 評価が 8 事業となっています。

それでは、資料 5 の 30 ページをご覧ください。「コミュニティバス無料化事業」についてですが、事業概要としましては、コミュニティバスの無料化を継続することで、地域の公共交通網によ

る移動手段の維持・確保を図り、交通弱者が容易に移動でき、社会参加等を促進するとともに、通勤・通学等の経費減による転入促進を図るものでございます。コロナ禍で落ち込んだ利用人数は、回復傾向にあるものの、コロナ禍前の水準には達しておらず、目標値も下回っているため、C評価としました。

次に、資料5の31ページをご覧ください。「泉佐野市大防災訓練」についてですが、事業概要としましては、11月第一日曜日の「市民防災の日」に市域全体で地域の自主防災組織を主体とした大防災訓練を実施するものでございます。目標事項の防災訓練参加人数の達成度は、昨年より増加したものの目標値に達しておらず、C評価としました。

次に、資料5の32ページをご覧ください。「地域防災の担い手の確保」についてですが、事業概要としましては、災害等に関する正確な知識を習得し、地域における防災・減災リーダーの育成を図るため、防災士資格習得研修を実施するものでございます。目標事項の防災士の資格習得人数の達成度が100%を超えたことから、A評価としました。

次に、資料5の33ページをご覧ください。「地域の絆づくり登録制度」についてですが、事業概要としましては、避難行動要支援者に対し、あらかじめ市に登録していただき、地域の支援団体や関係機関とその情報を共有し、平常時の見守りや災害が発生したときの避難支援活動、安否確認に役立てるものでございます。目標事項の①についてはKPIが目標以上に進捗しているものの、目標事項②については達成度が低かったことから、総合的な判断として、C評価としました。

次に、資料5の35ページをご覧ください。「泉佐野電力及び泉佐野ガスの運営」についてですが、事業概要としましては、一般財団法人泉佐野電力、及びその子会社である一般財団法人泉佐野ガスの運営を通して、公共施設等に電力及びガスを供給するものでございます。目標事項①の「調達電力に対する再生可能エネルギーの割合」が目標値に達成しておらずC評価としましたが、このシートの下段にある改善（A）欄にも記載がありますが、令和6年度における割合は、50%となる見込みであることを申し添えいたします。

次に、資料5の36ページをご覧ください。「健康マイレージ事業」についてですが、事業概要としましては、健康教室への参加や各種検診の受診など、健康づくりの取り組みに対し、さの健康ポイントの付与を行い、健康づくりへの積極的な参加促進を図るものでございます。令和6年1月に、デジタル化「さのぽっ歩」を開始し、「紙」と「デジタル」を併用した運用となりました。デジタル化により、飛躍的に参加者が増加し、A評価としました。

次に、資料5の37ページをご覧ください。「介護予防事業」についてですが、事業概要としましては、要介護状態への予防のための運動機能向上プログラムを実施や、カラオケ機器を利用した音楽介護予防教室を開催し、高齢者が自立した日常生活を営むことを図るものでございます。目標事項①の音楽介護予防教室の参加者数については、目標値を超えたものの、目標事項②のロコトレ教室参加者数が目標値に達していないことを考慮して、C評価としました。

次に、資料5の38ページをご覧ください。「防犯推進事業」についてですが、事業概要としましては、町会等が自ら管理するLED式防犯灯の整備することに対し補助金を交付することにより、地域住民の自主防災意識の高揚に寄与することを目的とするものでございます。目標事項①の実績値や達成度について、目標どおりに進捗したとは言えないため、C評価としました。

次に、資料5の39ページをご覧ください。「町会連合会の加入促進事業への補助金」ですが、目標事項①の「町会加入率」の達成度が目標どおりに進捗したとは言えないため、C評価としましたが、令和6年度につきましても、新規加入世帯に対する「さのぼ」ポイント付与事業や、町会・自治会へのインセンティブとして、新規加入世帯1世帯あたり5,000円の報奨金を町会・自治会へ交付する制度を継続、加入勧奨を進めていくこととしています。

次に、資料5の41ページをご覧ください。「地区福祉委員会活動の支援」についてですが、事業概要としましては、地区福祉委員会が主催する高齢者や障害者等への見守り訪問する個別支援活動や、孤立防止や地域での仲間づくり、介護予防等の目的で開催する交流会や高齢者サロン活動のグループ支援活動に対する支援を行うものでございます。目標事項①の個別支援活動実施世帯数については、引き続き、増加傾向にあるものの、目標事項②グループ支援活動回数については、コロナ禍前の回数まで回復できていないことを考慮して、C評価としました。

次に、資料5の42ページをご覧ください。「キャッシュレスや地域通貨の活用推進」についてですが、事業概要としましては、官民連携による地域ポイント「さのぼ」を通じて、地域外への経済流出を防ぐこと、および新たな地域内経済への流入を増やすことで、地域内経済循環を高め、自立した地域経済の活性化を図るものでございます。目標事項の①「地域内消費額」及び②「カード会員数」とともに目標値を大幅に超えてきたことから、A評価としました。

基本目標④の補足説明は以上です。

委員長： それでは、基本目標④について、ご意見・ご質問いかがか。

委員： 37ページの「介護予防事業」について、評価Cとなっているが、KPI①の実績値が大きく増加していることや、KPI②は目標値に達していないものの昨年度よりも実績値が10人増加していることから、B評価でよいのではないかと考えるがいかがか。

幹事： KPI①について、コロナの影響もあったが、地域に根付いた活動でもあることからすぐに回復することができたと考える。またKPI①②の違いとしては、KPI①については、40歳以上であればどなたでも対象となる。一方、KPI②については65歳以上の要支援1・2の方が対象となる。そのため、1人1人に応じて医学療法士が対応しているなど対象者が異なっている。

委員長： それでは、B評価への変更について意見はあるか。

委員： B評価は何%などの基準はあるのか。

幹事： 具体的な数値の基準は設けていないが、資料4裏面にそれぞれの評価に対する位置づけは示している。例えば、実績値が100%を超えたとしても、一時的なものである場合等、事業の性質によってはB評価としている。

委員： KPI①②について、それぞれの予算の比重はどれくらいか。

幹事： 比重としては、KPI②は全体の決算額の約5%となっている。

委員長： それでは、委員会の意見としては、KPI①について、予算比重が大きく、かつ実績値が目標値を大きく超えている。またKPI②については、実績値は目標値に届かないものの、直近の実績値の伸びが大きいことから、委員会評価としてB評価としてよろしいか。《はい》

委員： 30ページの「コミュニティバス無料化事業」について、全国的なバスの運転手不足の問題があり、実際に南河内ではバス会社が撤退した話などもある。現在は南海ウイングバスと連携できているが、長期的にみて代替手段を考えないといけないことから、「6年度における取組など」に代替手段など記載しておく必要があるのではないか。

幹事： 高齢化の進展により交通弱者が増えることから、コミュニティバスを補完する形でデマンド交通などの代替手段を考えている。

委員長： それでは、評価はそのまま「6年度における取組など」を修正する形でよろしいか。《はい》
それではそのようにさせていただきたい。

委員： 41ページの「地区福祉委員会活動の支援（ふれあいのまちづくり事業）【再掲】」について、「6

年度における取組など」に ICT を活用と記載しているが、高齢者への支援活動に対して実際に ICT が活用できているのか教えていただきたい。

幹 事： コロナ禍において活動が制限されるなか、補完的な手段として ICT を活用している。

委 員 長： 他いかがか。

それでは、基本目標④の事業については、37ページの市評価 C であったものを、委員会評価 B に変更するでよろしいか。《はい》

それではそのようにさせていただきたい。

それでは、全事業①から④についての評価をさせていただいたが、全体を通じて、改めてお気づきの点や疑問点などはないか。《なし》

本日の評価結果は、事務局で一覧にとりまとめて、後日ご確認をお願いするということにさせていただきます。

またその他修正箇所について、事務局と調整するという事でよろしいか。《なし》

次に次第の（3）今後の予定について、事務局の方から説明をお願いしたい。

事 務 局：《今後の予定について説明》

委員の皆さま、ありがとうございました。

今後の予定につきましては、本日、各委員の皆様からいただいた各事業に対する評価や

ご意見を踏まえ、事務局の方で、評価一覧表として、まとめさせていただき、まとめたものを吉村委員長と調整させていただいたうえで、各委員の皆様へ送付したいと考えております。そして、それぞれご確認いただきまして、もしご意見等があればお伺いし、最終まとめさせていただきたいと考えています。

従いまして、事業評価委員会につきましては、一旦、本日の1回で終わらせていただこうと考えています。なお、国の交付金の事業報告で、事業評価について別途、開催する必要がある指示があった場合など、どうしても皆さまのご意見をいただいた方がいいということになれば、またご連絡させていただくこともあるかも知れませんので、その際にはよろしくお願いします。

そのほか、最終まとめた評価一覧表につきましては、国をはじめ、9月に開催されます市議会9月定例会にて報告する資料にしたいと考えています。

以上でございます。

委 員 長： 今後の段取りについてご説明いただいたが、こちらでよろしいか。《なし》

それではそのような段取りで進めさせていただく。

それでは次に、次第の（4）その他であるが、皆さまの方から何かあるか。《なし》

《終了》